

## 名古屋工業大学巴会々報

## ともえ

平成 15 年 5 月  
No.37

名古屋工業大学機械工学科内 巴会本部

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 Tel (052)735-5400

Fax (052)735-5342

ホームページ: <http://www.mech.nitech.ac.jp/tomoe/index.html>

## 巻頭言

巴会副会長 太田 安彦



大阪から名古屋に来てそこに住むようになったのは昭和 36 年, 18 歳の時のこと, なにかとカルチャーショックを受けたが, その中でも, 他の人に解かってもらえないのは, 名古屋では平素常に芝居がかかっているわけではないということであ

った。御園座や名鉄ホールはその当時からあったが, 年に一回しか歌舞伎はかからず, 単発のものも僅かに一二, 文楽も滅多にかからなかった。小学校低学年のころから祖母にくっついて四ツ橋文楽座へ, 中学, 高校のころには道頓堀文楽座 (後の朝日座) へ, あるいは歌舞伎座, 中座, 京都南座へと, 家族の誰かと, あるいは独りで, 外題が変わるごとに出かけ, それが奇なことではなく, 普段の生活そのものと考えていたからである。

育った地域は天満というところである。小学校のころ, ある同級生の父親はガス会社の偉いさんであったが, 我々漬たれ小僧はその人と往来ですれちがうたびに「腰弁, 腰弁」と離してからだった。その人の住む二三軒先に小さい昆布屋があり, 実にシミッタれた商売人ではあったが, それとは別に, 彼が腰弁でないことに小学生も一目おき, その人の方が雇われ人より偉いと感じていた。

もちろんそのころすでに奉公人とはいえ, 番頭, 手代, 丁稚というような配列ではなかったが, 誰かに雇われているということは, 自分で時間の采配ができない身分であると知れた。他方, どんなに小さかろうが店を構え, 人を雇っている人達は Workday の日中にも, 仕事を専務と呼ばれる番頭に任せ, 芝居や文楽を見に行くことができる, そういう階級であった。

世間ではヴェンチャー企業の創立こそいま我が国に必要なと言い, 大学の教官にまで企業創設を求めている。それにはまず何らかの動機が生じなければならないだろう。一介の商売人よりも大企業に勤めている方が偉いという土地柄や風潮のもとにその動機ありや。また, ヴェンチャー創成を謳う人の言は商売人を評価し, 商売人の苦勞を知ったの上のことなのか。借金や手形の不渡りに耐え, 毎月欠かさず雇い人に給料を払っていくことがどれほど大変なことを知る者のみがヴェンチャー創成に耐えうる。単に技術力があればよいというものではない。そうした重圧があってもなお, 自分の時間を自分で采配したいというのは奉公人が発するものとはいえ, ひとつの大きな動機であろう。

文楽で語られる義太夫節には河内の農民への蔑視があると言われる。雇われ人のかなりがその地域出身であったことと対応していよう。四世竹本津大夫・六代鶴沢寛治「撰州合邦辻」の録音, でだし一小節を聴いて, それがどれだけの高みに達していたのかを最近ようやく思い知った。どこにでもあり, 永遠に続くと思っていたのは若年の幻想であった。

(S40 名古屋工業大学 教授)

## ’02 総会講演会資料

**「さなげアドベンチャーフィールド」設立  
から学んだこと**ライフクリエイション株式会社 代表取締役社長  
竹村 健

## 1、はじめに

当社は、アラコ株式会社  
60%、トヨタ自動車株式  
会社40%の出資を得て  
’93年9月に設立され、  
翌年4月、「さなげアドベン  
チャーフィールド」を創業  
いたしました。



事業の目的は、四輪駆動車の正しい取り扱いと安全運転を普及し、クルマ文化の発展に貢献する、というものです。最近RVもアウトドアライフも多様化が進み、当社も四輪駆動車の施設から総合アウトドア施設への脱皮を図っております。

施設内には、四輪駆動車専用のオフロードコースをはじめ、様々なアウトドア施設とレストランなどがあり、年間約4万人のお客様が来場されます。

## 2、設立の経緯

私が在籍していたアラコ株式会社は、売上高三千億円以上、従業員約五千人で、財務体質もきわめて良好なトヨタグループの優良企業です。事業の構成は、ランドクルーザーをはじめとした車両組立、トヨタ車のシートをはじめとした内装品、それに特装部門から成っています。車両組立部門は、親会社の生産戦略に大きく影響を受ける位置づけにあり、未来永劫アラコで受注し続ける保障のあるものではありません。

こうした環境の中、車両部門の将来を考えると、委託を受けている開発・生産機能に加え、商品企画提案から販売支援活動まで、一貫して果たせるボデーメーカーになることが必要と考えました。それは、受託品ではあっても自社商品として専門家になり、グローバル展開を目指すトヨタにとってニッチを補完することを意味し、トヨタから当該商品に

関わる絶大な信頼を獲得することにつながるからです。そのようなユニークなボデーメーカーになることは、一方においてトヨタグループの中での地位向上にもつながるはずですが。

そのためにはまず、全社員が「受託商品」から「自社商品」という意識に転換することが必要と考え、’87年、意識改革の手段として次のプロジェクトを立案しました。

モーターショーへの単独出展、

パリ・ダカールラリーへの単独出場、

四輪駆動車普及施設の運営、

の3つです。 はその後実現させ、 がこのさなげアドベンチャーフィールドです。

図らずも当時の社会環境は、’80年代からアウトドアライフが盛んになり、RVの代名詞といわれた四輪駆動車の販売が急増しました。それに伴い、四輪駆動車による自然環境破壊、交通事故などが社会問題となりました。いうまでもなく四輪駆動車は、高い悪路走破性を備えていますが、その取り扱いには特別な知識と運転技術が必要です。ところがメーカー・ディーラー・ユーザーのほとんどが、そのことを実地で理解する場所や機会がありませんでした。その意味からもこういった施設が必要だったのです。

## 3、事業化の推進

事業化には3つの段階があると思います。アラコのなかで最初にこの提案をしたのは’88年3月です。当時は諸般の事情で取り上げられませんでした。再提案したのは’91年7月です。このときこの企画をアラコのトップがトヨタトップに相談しました。その結果トヨタから賛同と全面的なバックアップが約束され、トヨタとの合併会社という形で事業化が決定しました。ここまでは企画段階です。

次の創業準備段階では、5haの山林開発ということで、地域や行政との折衝など解決しなければならないことが山ほどありました。必要な4億円ほどの資金は、有利子負債にならない方法で様々な工夫をして調達しました。

会社設立と創業準備を経て、'94年4月、創業開始となりました。経営段階です。あれから早8年が過ぎましたが、この段階にはさらに3つのステップがあったように思います。創業開始直後は、一気に露呈した準備段階で間に合わなかったことや創業後発見した諸問題を不眠不休で解決してきました。運営を軌道に乗せる期間です。次は事業計画を達成する段階になります。ここでは企画の見込み違いなどに対して新たな策を次々と打ち、成果を出さねばなりません。おかげさまで当社は、計画通り3年目より単年度黒字を達成することができました。そして創業5年目より、本業の更なる充実と、将来の発展に向けた新規商品・事業の開発に取り組みました。拡大期といえ、自主独立を目指しているいろいろなことにチャレンジしてきました。

現在必ずしも順調ではありませんが、企業が事業を続けられるのは、すべてお客様はじめ周りの方々のご支援があるからこそ、ということを感じておられます。

#### 4、事業化から学んだこと

私はこの事業を企画から現在の経営に到るまで一貫して行ってきました。したがって全体を通じた立場で多くのことを学ぶことができました。気がつくポイントを述べてみたいと思います。

##### (1) 起業家

起業家には、共通する心構えと企業内ベンチャー特有の仕事の進め方があるように思います。

心構えとして必要なことはいくつかありますが、最も大切なことは「私利・私欲を捨てる」ということではないでしょうか。企業の存在は自分のためではなく、社会に貢献するためにあると思います。あらゆる企業活動は、それが社会に役立つかどうかで判断しなければなりません。

仕事の進め方にも重要なことがたくさんあります。一つだけ挙げるとすれば、「事業コンセプトを明確にする」ことではないかと思えます。企業内ベンチャーの場合は特に大切で、すべての関係者に明示して合意を得ておくことです。特に人的環境が変

わった場合に様々な“指導”が入ってきますが、ゆるぎないコンセプトがあれば判断を誤ることはないでしょう。

##### (2) 会社

企業内ベンチャーを進める会社についても必要な要素はたくさんあります。なんとと言っても自由・闊達な雰囲気があれば、新規事業などよほどの人でなければ提案されてきません。またやると決めたらコンセプトに外れない限り自由にやらせ、必要な経営資源を十分に投入しなければなりません。特に人的資源は一級の人材を投入することです。ここで惜しんではならないと思います。

##### (3) 新規事業に適した人材

事業化の3つの段階ごとに必要な人材も異なるように思います。

まず企画段階では、企画力・情報力・知力といった能力が必要です。端的に言えば頭が良くて説得力のある人、といえるでしょう。極端に言えば人間性や人格といったものは必要不可欠ではないということです。

創業準備段階では、この段階で明らかになった企画の甘さや行政・利害関係者との調整など、課題が“面”で増えてきます。企画段階に加えて情熱や責任感・横の人間関係能力といった要素が必要になります。

経営段階に入りますと、いち早く運営を軌道に乗せ、企画と現実とのギャップを解決して目標を達成し、事業コンセプトを果たさなければなりません。さらに将来に向けて企業を発展させるビジョンの構築・実行など、前段階とは格段に多くの能力が要求されます。したがって企画・創業準備段階で必要な要素に加え、組織を動かすリーダーシップ・行動力、人間性・人格といった要素が必要になります。つまり経営段階こそ一級の人材が必要です。“創業は易く守成（経営）は難し”だと思います。

その他たくさんの教訓を得ましたが、割愛します。最後にまとめますと、何事も新しいことの成否は人次第、ということではないかと思えます。

## 関東支部便り

巴会の皆様には、厳しさの増す状況のもと、それぞれの立場でご活躍のことと、推察申し上げます。以下に関東支部の活動を紹介いたします。関東支部は、巴会の目的に添って活動をしており、各種行事にかかる費用は、巴会本部より交付される補助金、名工会本部より交付される名工会支部活動補助金から巴会関東支部へ会員数に比例して支給される補助金を財源としています。

### 1. 関東支部の活動

巴会独自で企画運営している行事はありませんが、名古屋工業会東京支部の構成メンバーとして、工業会東京支部行事（支部総会、ごきそサロン、エクスカーション、囲碁、ゴルフ）に参加しています。又これら行事の、企画運営に巴会東京支部幹事の方々に、参画ご尽力をいただいております。巴会幹事の名工会東京支部の役員は、下記の通りです。

**名工会東京支部支部長** M35 星野 三郎  
**相談役** M18 小関 健二  
**常任幹事** M35 東島 良治  
 （ごきそサロン担当）  
**常任幹事** M43 張田 吉昭  
 （総務担当）  
**支部監事** M44 村瀬 幸男

以下に各種行事と巴会会員の参加状況を報告いたします。

### 2. 巴会秋の集い

名工会東京支部総会は、毎年 11 月に平日 18 時 30 分より虎ノ門パストラルに於いて開催され、巴会は「巴会秋の集い」を兼ね参加しております。平成 14 年度は、11 月 12 日（火）に開催され、母校から柳田学長、応用化学科新木教授、機械工学科から昨年に引き続き太田安彦教授、市川名工会理事長、西川常務理事をお迎えいたしました。参加者は、全員で 178 名、巴会は、下記 17 名の参加があり、交流、懇親いたしました。

#### 参加者氏名（敬称略）

稲垣 道夫(M17)、小関 健二(M18)  
 日下規矩雄(M23)、深田 道夫(M25)  
 内海 安博(M26)、福岡 泰二(M30)  
 宮崎 和彦(M33)、松波 正壽(M34/39)  
 東島 良治(M35)、井上 武彦(M35)

坂田 有造(M35)、星野 三郎(M35)  
 野沢 滋為(M36)、張田 吉昭(M43)  
 村瀬 幸男(M44)、小野 尚純(M45)  
 松竹 真(M49)

平成 15 年度は、来る 11 月 13 日（木）に開催されます。平日開催のため、仕事の関係でご都合の付かない方が多いと思われませんが、数少ない在京同窓生との交流の場であり、また母校の状況を知る良い機会でもあり、同期の方お知り合いの方誘い合わせての参加をお待ちいたします。

なお、後日送付いたします参加申し込み往復はがきの「返信はがき」通信欄に巴会および会員相互へのメッセージを記入いただければ、例年通り「会員近況だより」にまとめ、関東支部在住巴会会員全員に配布します。住所、勤務先変更についてもこの「返信はがき」に記入返信下さい。確実に巴会本部、名古屋工業会本部に連絡いたします。

### 3. ごきそサロン

同窓生の方に講師を依頼し、時流にあったテーマで講演していただき、勉強会と会員の情報交換、親睦を深める会で、年 2 回 3 月、7 月の第二水曜日八重洲倶楽部で行っています。平成 14 年は、D36 佐藤 弘氏「H2A ロケット用火工品」、E39 織田 満之氏「原子力はどれくらい危険か、安全か」のおはなしがあり、各回巴会会員 5 ～ 6 名参加しています。

### 4. エクスカーション

名工会らしい内容を盛り込んだ日帰りバス旅行です。家族同伴可能の唯一の行事です。土曜又は日曜日に催されるので、平日の行事に参加できない方に、おすすめいたします。毎回巴会会員は、5 ～ 7 名の参加があります。

### 5. ゴルフ

年 4 回コンペがあり巴会会員も毎回 4,5 名参加しております。

### 6. まとめ

以上東京支部会員の活動、行事への参加状況の報告とします。折角できた同窓のご縁です。大切に続け広げることも必要と思います。巴会の隆盛、会員各位の益々の御健勝、活躍を祈念します。

(M35 星野 三郎)

## 関西支部便り

久しぶりに地元大阪に戻って、なんば「中国料理敦煌」で平成14年10月6日に行われました平成14年度関西支部総会のご報告をさせていただきます。

当日は新役員の初めての総会ではありましたが、多くの方々にご協力をいただき、無事、有意義に総会を下記の如く終わらせていただきました。特に、中村氏を始め顧問5名様全員に、S32, S35, S43は同期会も兼ねて、本部からは太田副会長と長谷川理事にご参加いただきました。講演会はS44の掛田氏と藤川氏をお願いいたしました。この会が先輩諸氏の築かれた良き伝統を守りつつ、会員皆さんの親睦になりますよう、微力ながら新役員一同がんばりますので、どうぞご協力の程よろしくお願い申し上げます。

### 記

- サウナタイム・・・総会前のリラックスタイム ご自由にサウナに入浴
- 参加者・・・41名 最高齢はS20中村氏 最年少はS52上野氏 今回は残念ながら若い人の参加少なし

- 講演・・・S44掛田氏 S44藤川氏
- 支部長挨拶・・・新役員紹介 支部活動活性化 工業会行事への積極的な参加 会員相互連絡を密にするためE-メールの活用 巴会ホームページ紹介 若年層への総会参加の働きかけ 返信のないスリーピング会員の掘り起こし
- 会計報告・・・堀内会計幹事
- 会計監査報告・・・山本副支部長
- 名古屋工業会入会案内・・・山本副支部長
- 母校報告・・・太田本部副会長 長谷川本部理事
- 顧問ご挨拶・・・S20中村氏 S22青木氏 S28三宅氏 S30大喜多氏 S30長屋氏
- 記念品贈呈・・・前支部長大喜多氏に記念品贈呈
- 記念撮影
- 懇親会・・・中村氏の乾杯音頭でスタート 円卓を囲み終始良い雰囲気での懇談

以上

福竹 泰彦 (S43 関西支部長)

## 巴会運営便り

平成14年6月22日(土)学内において、平成14年度巴会理事会・総会が開催され、全議案が承認されました。総会後の講演会では巴会出身者外より講師としてライフクリエーション株式会社社長竹村健氏をお迎えし企業内ベンチャーの立ち上げについて大変興味深いご講演を拝聴しました。7月23日理事会が開催され、名簿発行、巴会ホムペ-ジの開設・改良、昭和50年代卒業生への終身会員募集案内送付等について議論がなされました。副会長太田先生の指導でホムペ-ジは既に動いておりますので多くの方々のアクセスを期待しております。11月30日、平成15年3月29日の両日、理事会開催、名簿発行、OBは語る会、14年度決算案、15年度予算案、理事交替等について報告、協議がなされ、新年度総会への対応・準備を終了しました。

名簿委員会が平成14年9月14日開催され、理事会への最終承認を取る為の、発行価格、発行日程、募集案内等について協議され、結論を得ました。会報「ともえ」本号に募集広告掲載されております。皆様の購入をお願いします。

巴会ゴルフコンペ、第8回が6月1日ながしまCC、第9回が11月2日桑名CCで開催されました。第10回から、本会のお世話役は昭和50年卒新美重秋氏が担当されます。

平成15年3月25日母校講堂に於いて巴会主催の卒業記念パ-ティが開催され、塩見、太田両副会長はじめ多くの先生方並びにOBの参加で、例年になく多くの卒業生を迎えて、なかなかスマ-トなパ-ティとなりました。準備に当られた先生方に心より感謝します。

(S35 成田 政敏)

## 学内報告

### < 学生向け講演・懇談会 「OBは語る」会」報告 >

社会の第一線で活躍されている OB を講師としてお招きして、ご自身の学生時代や現在の仕事などについて現役の学生向けに語っていただく「OBは語る」会が、平成 14 年度は 11 月 15 日(金)に機械工学科 M 1 教室で開催されました。この会は今回が 3 回目であり、次の 4 件の講演と質疑応答が行われました。

- 講演 1 藤川 昭信 氏 (S45FB) 松下電器産業  
「AV 機器の変遷」
- 講演 2 富田 庸公 氏 (H1FB) 日本車両  
「建設機械の開発・設計の流れとそのポイント」
- 講演 3 伊藤 克彦 氏 (S57FA) 東邦ガス  
「都市ガス事業および東邦ガスの概要」
- 講演 4 浅野 圭吾 氏 (H4H) デンソー  
「自動車分野におけるデジタルエンジニアリング」

参加した学生は 24 名と昨年より少なめでしたが、質疑応答では活発なやりとりがみられ、講演の内容に関する事以外にも大学院進学の意義や資格取得、英語の必要性などについて先輩方からご意見をうかがいました。参加した学生から寄せられた感想の一部を次にご紹介します。

大変ためになるお話でした。学内ではあまり企業内のことを聞く機会がないため、一線で働いている方のお話はとても説得力があります。今後もこのような機会は増やした方がよいと思います。

いま講義で習っていることが設計、生産現場での基礎となることをよく認識できました。

英語が必要なことを改めて痛感しました。

新境地が開けた気がします。大変参考になりました。

来年から就職する身として良い話を聞くことができました。また、それぞれの分野における内情も聞けてよかったです。

最後に、講師をお引き受けいただいた方々に改めて感謝申し上げます。この会の企画・運営は巴会学生会担当理事の長谷川 吉正 (S43F)、仙石 武広 (S61H)、早川 伸哉 (教官) が担当しました。

### < 学内人事異動 >

名古屋工業大学機械工学科、大学院生産システム工学専攻・都市循環システム工学専攻・機能工学専攻・情報工学専攻・産業戦略工学専攻の機械系分野において、つぎの人事異動がありました。

平成 14 年 4 月 1 日付

名誉教授 授与	中林 功一
名誉教授 授与	松原十三生
名誉教授 授与	水野 高爾
ものづくりテクノセンター長 兼任	藤本 英雄
教授 着任	梅原 徳次
助教授 昇任 (オークマ・榎本工業寄附講座)	

	陳 連怡
助手 着任	玉野 真司

平成 14 年 5 月 1 日付

教授 着任	松本 健郎
-------	-------

平成 14 年 8 月 1 日付

教授 昇任	水野 直樹
-------	-------

平成 14 年 11 月 1 日付

助手 着任 (生産システム工学専攻)	長山 和亮
助手 着任 (オークマ・榎本工業寄附講座)	
	則久 孝志

平成 15 年 3 月 1 日付

助教授 昇任	石野洋二郎
助教授 昇任	古谷 正広

平成 15 年 4 月 1 日付

教授 昇任 (トヨタ寄附講座)	佐野 明人
助教授 着任	坂口 正道
助教授 着任 (トヨタ寄附講座)	望山 洋
講師 着任 (トヨタ寄附講座)	武居 直行
助手 着任 (トヨタ寄附講座)	菊植 亮
助手 着任	上坂 裕之

### < 巴会ソフトボール大会 >

平成 14 年 7 月 22 日、巴会ソフトボール大会が千種グラウンドにて開催されました。猛暑の中、27 チームが参加し熱戦が繰り広げられました。接戦の末、伊藤基之研が優勝、田中研が準優勝、大岩研が 3 位でした。(川嶋研：中村)

< 卒業式 >

平成 15 年 3 月 25 日に卒業式が挙行され、学部機械工学科では第一部 145 名(昨年 140 名)および第二部 23 名(26 名)が卒業証書を、大学院生産システム工学専攻および都市循環システム工学専攻の機械系講座では 74 名(86 名)が修了証書を、3 名(9 名)が学位記を手に入れました。なお H.14.9.25 修了者は大学院 1 名、H.14.9.30 修了・卒業者は大学院 1 名、第一部 1 名(2 名)、第二部 2 名(1 名)、H.15.3.31 卒業者は第一部 7 名(4 名)、第二部 4 名でした。

機械工学科 卒業生 三賞 受賞者

機械工学科卒業生の中で、学業成績が優秀な下記の 9 名に対して各賞が贈られました。

- 名古屋工業会賞 3 名
- 第一部 前田 大介, 小林 和貴
- 第二部 三浦 勝也
- 日本機械学会 畠山賞 3 名
- 第一部 鈴木 壮太郎, 高澤 雅紀
- 第二部 村澤 英治
- 巴会賞 3 名
- 第一部 柴田 雅之, 久保 敦志
- 第二部 尾崎 徳一

< 平成 14 年度卒業生・修了者一覧 >

以下に示すのは、機械工学科卒業生および大学院生産システム工学専攻・都市循環システム工学専攻修了者(機械工学科関係分)です。

大学院 博士後期課程 修了者 4 名 稲垣 昌英 Ori Ricardo Itiro M. Firdausi Manti 近藤 靖裕

大学院 博士前期課程 修了者 76 名

岸本 薫実	岡本 大路	桑山 卓也	長澤 文雄	花瀬 務	安井 真也
石堂 祥央	奥出 憲和	甲村 雅彦	中根 正伸	林 雄一郎	矢野 功一郎
石原 秀記	長田 純一	神山 貴量	仲村 栄祐	原田 篤	山内 敏文
市川 美智子	加賀 博之	近藤 基治	中村 真也	船橋 秀史	山北 龍児
伊藤 正明	片山 快史	沢田 佳尚	西 恒介	舟橋 勇	山田 淳司
稲垣 賢一郎	角 弘之	清水 洋児	西尾 潔	松田 克弘	山田 智久
印田 尚	加藤 大貴	杉浦 由起夫	錦織 正樹	宮川 信一郎	山田 篤史
鵜飼 明恵	加藤 公英	杉浦 洋一	蜷川 正人	宮西 英樹	山田 雅司
氏原 大介	川島 亨	高橋 正徳	Hawsawi	三好 正裕	山田 雅司
打田 了輔	木下 勝之	竹内 祥奎	長谷川 祐介	三輪 光太郎	劉 国平
太田 進一	金 一哲	竹内 博良	長谷川 介士	村瀬 善則	渡辺 一貴
大場 利紀	國枝 直人	武本 高明	長谷川 拓也	森 成良	
岡林 洋祐	黒田 茂男	田尻 武	長谷川 福生	森田 裕介	

学部 第一部 卒業生 153 名

加藤 健太郎	大塚 富査子	小池 知宏	出原 正規	鈴木 壮太郎	平木 雅人
阿川 哲平	大坪 靖幸	小橋 拓夫	岩堀 明生	宗田 涉	藤岡 雄亮
浅沼 順也	大間 健太	小林 和貴	大槻 修平	高澤 雅紀	古谷 浩司
阿部 晃治	奥岡 友和	後藤 喜明	加藤 聡	高田 伸久	堀澤 慎太郎
生田 直子	勝城 勝	酒井 英典	門脇 仁隆	高橋 誠	前田 大介
井口 亮	加藤 健志	阪口 道洋	小玉 誠之	竹野 佑哉	松井 秀也
石黒 大樹	加藤 修司	佐々木 健治	小林 直樹	嶽村 彰俊	松浦 千春
石田 真	加藤 慎也	佐藤 雅美	佐藤 友大	塚松 裕崇	三鴨 賢一
市川 直紀	加藤 政登	佐藤 嘉浩	眞田 浩昌	辻 聡志	三木 善揮
伊藤 伊久雄	加藤 正久	澤田 英明	白崎 耕平	出崎 洋成	宮地 一憲
伊藤 作也	川瀬 康裕	財津 健	鈴木 洋	土性 晃子	柳原 辰一郎
伊藤 信輔	河村 浩志	志知 宏昭	鈴木 尋任	中垣 将	山下 慎一
伊藤 拓造	菊池 真俊	篠田 祐司	関 真二	中澤 勇太	山田 尚司
伊藤 直輝	北原 智之	柴田 雅之	伊藤 匡在	中村 俊彦	山野 幸司
伊藤 正博	北村 尚之	柴田 裕美子	井上 大督	中村 豪男	山本 崇寛
伊藤 勇樹	木部 隆史	嶋崎 撰	大谷 友治	永井 純一	横井 大輔
入田 さおり	久世 雅人	嶋田 隆男	笠野 剛史	服部 智行	横森 哲也
上原 寛隆	久保 敦志	城野 貴洋	川合 暁	服部 真哉	横山 周平
浦田 泰宜	窪田 浩二	鋤柄 直	栗田 剛志	花岡 早苗	米原 悠二
大木 武志	栗澤 伸平	青山 高士	樺島 三紀彦	稗田 頭彦	渡辺 洋祐
大谷 誠之	桑原 秀明	磯村 考輔	白石 竜太郎	日比野 浩二	M. Salahuddin

井上 大喜郎	土佐 智弘	山本 伸行	山本 壘	瀧澤 佑輔	梅村 拓也
中牟礼 賢治	中尾 知宏	余谷 直秀	宮下 晋一	小島 章宏	日置 雅代
高嶋 育美	中村 陽介	加藤 裕章	宮嶋 俊幸	澤崎 雄樹	
竹本 晃宏	原 雅人	藤田 桂	段堂 功	岡田 隆則	
徳光 邦人	平野 裕一	松村 淑子	水野 竜太	奥田 浩貴	

学部 第二部 卒業者 29 名

尾関 英次郎	川見 剛司	林 幹康	武藤 拓人	日比野 敏幸	鈴木 仁
安田 勲	喜多 静夫	藤井 新	村澤 英治	八嶋 健	園田 哲也
青柳 謙二	佐伯 誠	本多 正悟	山口 昌吾	山田 健一	早川 一幸
大塚 靖之	筒井 雅博	三浦 勝也	榎 伸也	西川 賢治	市野 恭功
尾崎 徳一	中根 浩生	三浦 亮介	加藤 靖章	東岡 美子	

<平成 14 年度進路・就職先一覧>

以下に示すのは、機械工学科卒業者および大学院生産システム工学専攻・都市循環システム工学専攻修了者（機械工学科関係分）の進路・就職先です。

大学院 博士課程 修了者 進路・就職先

IHI	航空自衛隊	豊田工機	日立インダストリーズ
アークレイ	島津製作所	豊田合成	日立造船
アイシン・エイ・ダブ	CSK	トヨタ自動車	富士機械製造
リュ	シャープ	トヨタ車体	ブラザー工業
アイシン精機	シュルンベルジェ	豊田紡織	ホシザキ電機
アラコ	新日本製鐵	三菱エンジニアリング	本田技研工業
INAX	スズキ自動車	名古屋工業大学大学院	松下電器産業
NTN	大同メタル工業	博士後期課程	松下電工
川崎重工業	ダイハツ工業	名古屋高速道路公社	マキタ
キヤノン	中部電力	ニデック	三井造船
京セラ	デンソー	日本車両製造	三菱重工業
小糸工業	豊田自動織機	日本発条	ヤマザキマザック
コマツゼノア	豊田中央研究所	日本特殊陶業	ヤマハ発動機

学部 第一部 卒業者 進路・就職先

愛三工業	極東開発工業	トーマコーポレーシ	ベンチャーセーフネッ
アイシン・エイ・ダブ	国土交通省中部地方整	ョン	ト
リュ工業	備局	東京工業大学大学院	北斗銀行
アイシン・エンジニア	三洋機工	博士前期課程	マルヤスエンジニア
リング	三洋電機産機システム	トヨタ自動車	リング
アイシン軽金属	カンパニー	トヨタ車体	前川製作所
愛知機器	敷島製パン	豊田鉄工	三浦工業
愛知機械工業	ジャトコ	内藤製作所	メイテック
愛知県警	関戸機鋼	名古屋工業大学大学院	森精機製作所
アテック	ゼネラルエンジニアリ	博士前期課程	ヤマハマリン
今治造船	ング	名古屋大学大学院	横浜国立大学大学院
エヌ・ティ・ティシステ	ソニーEMCS	博士前期課程	黒川研究室
ム開発	第一システムエンジニ	鍋屋バイテック	リコーエレメックス
オートリブニチュ	アリング	日本電産	リンナイ
オンダ国際特許事務所	中央エンジニアリング	ニデック	
カゴメ	千代田機械製作所	富士通テン	
カヤバ工業	デンソーテクノ	フタバ産業	

学部 第二部 卒業者 進路・就職先

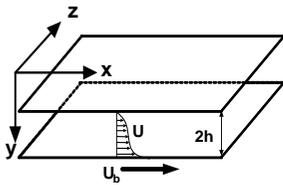
愛知機器	東名パワード	ノリタケセラミック	マルヤス工業
尾上機械	東海興業	ファインセラミックス	三越
川重岐阜エンジニア	トーテックアメニティ	センター	水野鉄鋼所
リング	名古屋工業大学大学院	半田ミツカン	
三五	博士前期課程	ベストテック	
千代田機械製作所	日進工業	松尾製作所	

## ～ Voice of students ～

### 「研究について」

博士 3 年 梅木 雅之

この欄に書くべき内容を思いつかないので今回おこなった研究について簡単に述べることにします。私は、乱流の実験的研究を行っています。具体的には、クエット乱流と呼ばれるものです。この流れは平行に並べた平板の平行移動により駆動される流れです(下図参照)。



(図 クエット乱流)

下の写真はスモークワイヤー法により可視化したものです。図 1 は、断面(x,z)の可視化をおこなったものでクエット乱流は大きな乱れを持つことがわかります。図 2 は断面(y,z)の可視化を行ったものです。クエット乱流では流れ方向を向いた大規模な縦渦構造の存在が報告されていますが、この可視化写真でも縦渦による旋回運動をとらえており縦渦構造の存在を裏付けています。

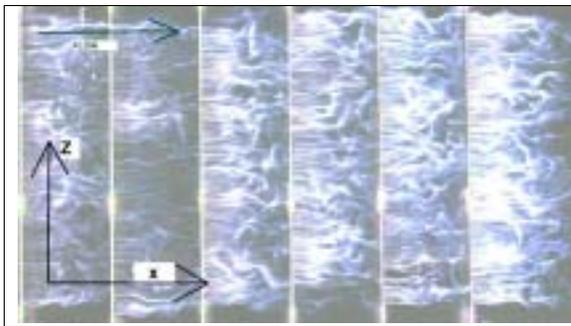


図 1. 可視化写真その

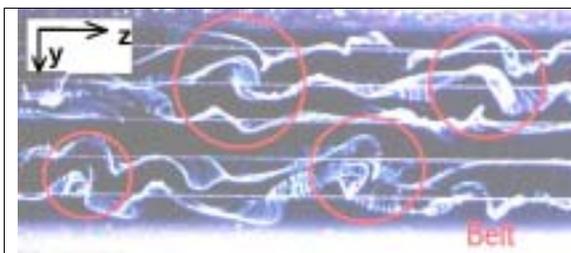


図 2. 可視化写真その

### 「学会への参加・発表を通じて」

博士 1 年 山北 龍児

私が、はじめて『学会』を経験したのは、平成 14 年の 3 月に行われた東海支部の総会でした。学会発表をするためには、はじめに、講演の申込みを行い、次に、『前刷り』という発表する内容を提出します。この時、指定された前刷りの枚数の中で、自分がどんな研究を行っている、何を一番言いたいのかを書くことに、非常に苦労しました。しかし、この苦労は、いやな苦労ではなく、充実した苦労でした。前刷りを提出した後に、発表するための発表原稿の作成を行います。この発表原稿を作る時が、一番楽しく、講演者の個性を出せる時であり、かなり時間をかけたと思います。

そして、ついに、東海支部の総会の日。自分の番が来るまでは、緊張していましたが、いざ発表する番になり、アツという間に時間が過ぎ終わってしまいました。その時は、ただ発表することだけに必死だったと思います。この最初の学会への参加・発表を通じて、学会の楽しさ、難しさを感じ、「また、発表したい。」と強く思いました。

修士 2 年になり、いろいろな学会(川崎、沖縄そして大阪)への参加・発表の機会を頂きました。そのたびに、いかにうまく人に伝えるか、また、いかに興味を持って聞いてもらい、理解してもらえるようになるかを考えました。そして、いろいろな講演者の発表を聞くことにより、自分に足りないものを見つけては、次に生かせるようにしてきました。学会発表を始めた頃には、質問されることに対しての不安がありましたが、今では、質問されないことに対して不安がありません。質問されない発表ほど、講演者にとって虚しさを感じることはありません。発表が終わって、質疑応答の時間は、他の研究者の意見が聞けて、またその質問に対する自分の考えを聞いてもらえる場なのです。

平成 15 年の 3 月に初の海外発表を行い、今までの国内の発表では感じたことのない雰囲気味わうことができました。特に、海外の研究者たちの発表を聞き、「自分はまだまだこれからである。」と改めて実感し、新たな目標ができました。現在は、博士 1 年生として学校生活を送っています。国内・国外と学会発表をする機会が多くなると思いますが、研究・発表に対して、より広い視野を持ち、責任を持たなくてはいい立場になります。今までの学会発表で得たことを、今後の研究・学会発表に生かしていきたいと思っています。

## 「巴会 2003 年度版名簿」の発行について

巴会では、2003 年(平成 15 年)12 月に会員名簿を刊行すべく目下準備を進めております。

### (1) 住所等に変更がある場合

同封の変更届用はがきをご使用して、平成 15 年 7 月 31 日までにご連絡をお願い致します。

### (2) 名簿の価格と購入申込み

予約価格(平成 15 年 7 月 31 日までにお申込みの場合) 2700 円 / 一冊(送料含む)  
通常価格 3000 円 / 一冊(送料含む)

同封の振込用紙(卒業年次もご記入ください)をご使用願います。

今回の名簿発行に際しては、協賛広告を募集せず、発行に必要な費用には、巴会の会費と名簿の販売収入をあてることになっております。

つきましては、左記のように、名簿の発行とご購入について格別のご配慮をお願い申し上げます。

-----  
巴会名簿に関するお問い合わせは以下にお願い致します。

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町  
名古屋工業大学 機械工学科 巴会  
(しくみ領域) 小島 之夫  
TEL. 052-735-5335  
電子メール [kojima@megw.mech.nitech.ac.jp](mailto:kojima@megw.mech.nitech.ac.jp)

### 訃報

T13A 川上 純三 H14.10.26  
S02A 加藤 幸助 H 7. 3.11  
S03A 赤松 茂 H15. 1.10  
S03 長谷川 実 H14. 3.19  
S04 田中 稔 H14.  
S04 加藤 彦夫 H14. 2. 2  
S05B 榎原 敏彦 H13.12. 5  
S08 押見 保夫 H14. 3.11  
S09A 山田 利一 H13. 9.28  
(旧姓 桑野)  
S10A 宮崎 利一 H15. 2. 4  
S10B 吉野 繁雄 H13. 1. 2  
S11A 小林 義孝 H 7  
S12A 大矢 二郎 H12. 2.20  
S12A 渡辺 茂 H14. 4.22  
S13A 東木 理吉 H13. 9. 7  
S13A 野口 弘一 H14.11. 8  
S13B 花村 敏行 H13  
S13B 西 二夫 H14. 5. 1

S13 安田 鉦一 H14. 9.  
S14A 坪内 正 H14.10.24  
S15 藤川 澄隆 H14. 4. 2  
S16 澤木 汀二 H13.10.11  
S16 出原 康 H14. 4.19  
S16 渡部 愛三 H14. 6. 3  
S16A 二ノ丸克己 H14. 3.16  
S16A 柴田 俊吉 H14.12. 3  
S16A 木全 正三 H15. 3.12  
(旧姓 牧野)  
S18 小林 巖 H18.  
S18 蜂須賀憲男 H14. 5. 5  
S19A 山田 春夫 H13. 9  
S19A 三輪 政司 H14. 7  
S20A 日置 一男 H14. 3.23  
S20A 石野 俊次 H15. 2. 3  
S20C 溝口 久雄 H14. 1.30  
(旧姓 稲垣)  
S21 井上 敬三

\*S21C 山本庄二郎 H12. 9.12  
S21C 島田 市郎 H13. 9.30  
S21C 小森 健二 H14. 9.22  
S22 細川 静致 H14.  
S22A 河津 成男 H13.11.26  
S22A 河崎 一夫 H14.11.19  
S23A 山下 慶彦 H13. 8.21  
S25 加藤慎一郎 H14. 1.27  
S25A 藤田 武男 H12.11.23  
S26 山守 昭三 H14. 6.17  
S26A 白井 正 H14.10. 5  
S37F 徳重 道夫 H13.11.15  
S37F 石川 哲 H14. 8.31

\*ともえ No.35 で誤植がございましたので、訂正ならびにお詫び申し上げます。

## < 予告 > 平成 15 年度 巴会理事会・総会 議題資料

### (1) 平成 15 年度役員名簿(案)

会 長 : 塩見 正直 (アラコ会長)

副会長 : 学外・丹羽 小三郎 (S40)

学内・川嶋 統一郎 (教官)

理 事 : 星野 三郎 (S35, 関東支部長)

福竹 泰彦 (S43F, 関西支部長)

下田 勝義(S38) 稲田 雅己(S39) 小林 明彦(S40)

長谷川吉正(S43) 尾針 幸雄(S45) 内藤 正(S47)

大西 一(S49) 新美 重秋(S50) 中山 喜敬(S53)

汲田 邦彦(S56) 伊藤 克彦(S57) 仙石 武弘(S59)

浅野 弘揮(H01) 大島 成通(H02) 澤田 好史(H06)

伊藤 基之 小島 之夫 土田 陽一 森西 洋平

伊藤 智啓 田川 正人 西田 政弘 横田 和彦

井門 康司 林 高弘 牧野 武彦 (以上教官)

監 事 : 渋谷 修(S40) 辻 俊博(教官)

名誉会長 : 下山 鑛一

最高顧問 : 山田 豊

特別顧問 : 金原 淑郎

顧 問 :

小出 謙(S16A) 西坂 誠三(S16A) 岩月 央(S19-9A)

中村 武彦(S20-9A) 中谷宗三郎(S20-9A) 可知賢次郎(S22D)

佐藤 真吉(S22D) 船橋 錚一(S28F) 山中 由男(S29F)

石川 宏(S30F) 大河 内禎一(S31F) 木村 金治(S35F)

## (2)平成 14 年度事業報告 (案) および 平成 15 年度事業計画 (案)

	H14年度事業報告	H15年度事業計画
会報	「ともえ」No.36 発行 H14.5	「ともえ」No.37 発行 H15.5
総会	名古屋工業大学 3号館2階 M3講義室 H14.6.22	名古屋工業大学 3号館2階 M3講義室 H15.6.21
講演会	名古屋工業大学 3号館2階 M3講義室 H14.6.22 講演者 ライフクリエーション株式会社 代表取締役社長 竹村 健 氏	名古屋工業大学 3号館2階 M3講義室 H15.6.21 講演者 名古屋工業大学(機械工学教育類) 教授 梅原 徳次 氏
総会 付随行事		(1)無料技術相談 3号館 8階リフレッシュルーム 相談員 日本技術士会技術士 丹羽小三郎氏 (2)研究室開放 中村研究室, 田中(俊)研究室, 川嶋研究室 (3)フォーミュラーカー製作の紹介(学生)
懇親会	名古屋工業大学学生会館1階 H14.6.22	名古屋工業大学 講堂2階会議室 H15.6.21
支部	1. 関西支部総会・懇親会 H14.10.6 2. 関東支部秋の集い H14.11.12	1. 関西支部総会・懇親会 2. 関東支部秋の集い
学内事業	(1)新入生歓迎会 H14.4.11 (2)ソフトボール大会 H14.7.22 (3)OB は語る会 H14.11.15 (4)巴会賞授与式および卒業記念パーティー H15.3.25 (5)院生学生会出席補助(9件)	(1)新入生歓迎会 H15.4.10 (2)ソフトボール大会 H15.7 (3)OB は語る会 (4)巴会賞授与式および卒業記念パーティー H16.3. (5)院生学生会出席補助
会議	理事会(3回延べ49名), 名簿委員会(1回9名)	理事会, 各種委員会

## (3)平成14年度 会計報告案(2002.4.1~2003.3.31) (4)平成15年度 予算案(2003.4.1~2004.3.31)

## [一般会計]

収入		支出	
前年度繰越金	2,147,796	会報発行発送費	895,341
クラス会費	427,830	支部補助	300,000
終身会費	955,080	総会/講演/懇親会	242,162
(卒業生 43 名)	(855,080)	学内事業補助	430,990
(在学生 10 名)	(100,000)	名簿整備費	418,238
総会懇親会参加費	241,500	会議費	103,071
受取利息	18	事務通信費	92,539
雑収入	15,575	雑費	46,360
		次年度へ繰越	1,259,098
合計	3,787,799	合計	3,787,799

## [一般会計]

収入		支出	
前年度繰越金	1,259,098	会報発行発送費	900,000
クラス会費	400,000	支部補助	300,000
終身会費	1,200,000	総会/講演/懇親会	250,000
(卒業生 40 名)	(800,000)	学内事業補助	600,000
(在学生 40 名)	(400,000)	名簿整備費	500,000
総会懇親会参加費	250,000	会議費	150,000
受取利息	20	事務通信費	100,000
		雑費	100,000
		予備費	209,118
合計	3,109,118	合計	3,109,118

## [奨学会計]

収入		支出	
前年度繰越金	2,062,361	巴会賞	57,204
受取利息	806	次年度へ繰越	2,065,963
基金会計から補助	60,000		
合計	2,123,167	合計	2,123,167

## [奨学会計]

収入		支出	
前年度繰越金	2,065,963	巴会賞	60,000
受取利息	1,000	次年度へ繰越	2,066,963
基金会計から補助	60,000		
合計	2,126,963	合計	2,126,963

## [基金会計]

収入		支出	
前年度繰越金	23,657,035	奨学会計へ補助	60,000
受取利息	7,841	次年度へ繰越	23,604,876
合計	23,664,876	合計	23,664,876

## [基金会計]

収入		支出	
前年度繰越金	23,604,876	奨学会計へ補助	60,000
受取利息	8,000	名簿会計へ補助	2,700,000
		次年度へ繰越	20,852,876
合計	23,612,876	合計	23,612,876

## [名簿会計]〔新設〕

収入		支出	
前年度繰越金	0	名簿発行費	3,800,000
受取利息	2,000	名簿発送費	220,000
名簿販売収入	1,718,000	雑費	100,000
基金会計からの補助	2,700,000	予備費	300,000
合計	4,420,000	合計	4,420,000

## 平成 15 年度巴会理事会・総会のご案内

日 時：平成 15 年 6 月 21 日(土)

場 所：名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 講義室

理事会・総会 14:00 ~ 14:50

講演会 15:00 ~ 16:00

演題：「磁場を用いた金型のエコ加工と超低摩擦硬質膜による機能性表面の創成」

講師：名古屋工業大学大学院 工学研究科(つくり領域)機能工学専攻 梅原 徳次 教授

懇親会 16:10 ~ (講堂 2 階会議室にて)

会費：OB 5,000 円 学生 500 円 (懇親会に出席される方)

申込：クラス代表者へお申し込み下さい(当日受付可)。  
なお、S40 年以降卒業の方は直接巴会本部へ  
ハガキまたは FAX にて 6 月 7 日までに  
お申し込み下さい。

電話：052-735-5348 佐野 明人 先生

FAX：052-735-5565

自家用車の乗り入れはご遠慮下さい。



### 巴会総会付随行事 [平成 15 年 6 月 21 日(土)]

無料技術相談：10:00 ~ 12:00 3 号館 8 階 814 リフレクシム

相談員 日本技術士会 技術士 丹羽 小三郎 氏

受付 先着 10 名：6 月 13 日までにメール，またはファックスで相談内容を下記宛てに相談概要をご連絡下さい。

[kkawas@megw.mech.nitech.ac.jp](mailto:kkawas@megw.mech.nitech.ac.jp) 川嶋 紘一郎 先生 宛 Fax：052 735 5488

研究室開放：12:00 ~ 14:00

#### 1. 中村 研究室 3 号館 1 階 121 室, 125 室

内容：スターブド EHL 油膜の可視化観察，トラクシヨンドライブ試験装置，油剤の高圧粘性・高圧せん断応力の直接測定，ワイヤー放電加工装置

#### 2. 田中(俊) 研究室 3 号館 1 階 122 室, 126 室

内容：透過型電子顕微鏡、A r イオン研磨装置、顕微ラマン分光測定装置、顕微赤外分光装置、超音波顕微鏡、(超高真空走査トンネル顕微鏡)  
1 2 号館の微小域 X 線応力測定 / 回折装置も開放可能

#### 3. 川嶋 研究室 3 号館 8 階 817 室, 821 室

内容：レーザー超音波，水浸超音波，電磁超音波，非線形超音波法による非破壊材料評価・欠陥検出，数値波動伝播解析による各種超音波伝播の可視化

学生のフォーミュラーカー製作の紹介 (博士前期課程 1 年次 三木 善揮 君)

懇親会(講堂 2 階会議室)の時間中(16:10 ~) 及び 講堂 1 階ホールでの展示

## あとがき

「ともえ」37 号をお届けします。

桜前線もかなり北上しましたが、会員各位におかれましては、ご健勝のことお慶び申し上げます。

日本の株価はこのところバブル以降の最安値を更新しています。日経ダウで小泉内閣発足時 1 万 4 千円であったものが、今では 8 千円を割り込み株市場が冷え切っています。日本経済はどうなるのでしょうか。不安感ばかりが先立ってしまいます。経済政策の失政・イラク戦争等原因ではありましようが、世界経済そのものが「もの作り」に立脚しておらず、実態のない情報に左右されているのでし

か。日夜「もの作り」に励んでいるものとしてはなはだ寂しく感じます。技術系の皆様も私に似た感覚をお持ちのことと思います。奮起一番日本経済再興に起死回生といかないものでしょうか。イラク戦争もこれで一段落、今後の復興に期待したいところで

す。  
最後になりましたが、「巻頭言」執筆の太田副会長、「関東・関西便り」の関東・関西両支部長、「総会講演会資料」の竹村健氏、「学内報告」等担当の各先生方、また本号の編集にご尽力頂いた各位さまに深く尽謝する次第です。 (S38 下田 勝義)